



水都徳島市をめぐる春の旅

高知県瓶ヶ森^{かめがもり}から始まる吉野川。全長194kmの長い旅を経て紀伊水道に流れ込む。河口の川幅は、1.3kmにもなり、春になると潮干狩りやウインドサーフィンを楽しむ人も多い。

その河口の町が徳島市だ。町の中心を流れる新町川。江戸時代には、吉野川を行き来する平田船が県西部から、木炭、煙草、薪、藍玉などを運び、多くの船が行き来した。川沿いには、藍の染料を保管する藍蔵が立ち並び、多くの藍商人たちで賑わった。

「全国に水都といわれるところは、数々ありますが、徳島市は本当に水と人の距離が近いですよ」とNPO法人徳島ツーリズム協会 代表理事 黒田忠良^{くろだ ただよし}さんは言う。

水もぬるんできた温かい春の日、水都 徳島を探訪した。

徳島市のシンボル、眉山^{びざん}と新町川



観光まちづくりで徳島を元気に NPO法人 徳島ツーリズム協会 代表理事 黒田 忠良さん

まさに徳島の観光の生き字引的存在。行く場所すべてで、徳島の歴史や文化、地元の人も知らないようなエピソードなどをずっと笑顔で紹介してくれた。

「今回は、水都徳島の魅力を感じることが目的なので、周遊船に乗りましょう」と早速、NPO法人新町川を守る会が運営するひょうたん島周遊船へ。

徳島市内には大小138の河川が流れ、国土交通省は徳島市を「水の郷百選」に認定している。周遊船でめぐる新町川と助任川に囲まれた中洲は、上から見るとその形がひょうたんのように見えることから「ひょうたん島」ともよばれ親しまれている。1周約6km、約30分のクルーズだ。



助任川から眺める徳島中央公園北側の蜂須賀桜並木。江戸時代、徳島城内で藩主に愛蔵されていた。3月上旬に一足早い春を感じることができた。

出発すると徳島市のキャラクター、新町川にすむ魚の妖精「トクシィ」のテーマソング♪みんなあつまれトクシィのまち♪が聞こえてきた。軽快な音楽を聞くと、素敵なことが周遊船めぐりで起きるようなワクワク感に浸ることができる。出発すると、川側から眺める橋や風景、藍や舟運で発達した徳島の歴史



や偉人についてなど、音声によるガイドが流れてくる。実は、この音声ガイドの声の主が黒田さん。長年ラジオ・パーソナリティとしても活躍されている。軽快な案内でより一層、徳島の水辺の魅力を見て肌で感じるができる。この音声ガイドが流れ始めたのは今年の3月上旬から。NPO法人徳島ツーリズム協会とNPO法人新町川を守る会の連携で実現した。もちろん、この日はご本人の生の声による案内もしていただいた。



県庁前のヨットが係留されている「ケンチョピア」水の都徳島を感じる風景だ。



船から眺める風景。魚や渡り鳥も間近に見られる。



何度乗っても、毎回、新しい発見があり、四季折々に見える眺めや川から受けながら、徳島市が豊かな自然に恵まれていることを実感する。これから暖かくなると、エイに遭遇できる確率も高いとか。

「他にも水の都といわれる場所がありますが、徳島市は本当に生活している場所と、水辺に近いんです。きれいな水辺に親しめることができるのも大きな魅力の一つです」という黒田さんの言葉が印象的だった。

橋の下をくぐるように進んでいく。まるでアトラクションだ。

自分たちだからこそできること

「地元徳島の良さを、より多くの方々に伝えたい」との思いから、平成23年6月に設立されたNPO法人 徳島ツーリズム協会。現在会員は23名。観光事業者や自営業者、観光ボランティアガイドなどさまざま。

大切にしているのは四国遍路の「おせっかいのおもてなし」の気持ち。

ツアーの形態も様々。徳島市や隣接市町村をめぐるツアーには「地域のおいしい特産品を食す」「農村舞台などの伝統を知る」「藍や徳島市のまち並みからわかる歴史」など、それぞれテーマがあり、バスで行く観光だけではなく、まち歩き、ウォーキング、電動サイクルでめぐるツアーなど、徳島ツーリズム協会ならではのラインナップがあり、スタッフがたっぷりと案内してくれる。案内する話題は尽きないので、お客様に30分がいいのか1時間がいいのかなど、希望時間を聞いているとか。

吉野川に関連したツアーでは、徳島駅を電動サイクルで出発し、大河吉野川を眺め、阿波しらさぎ大橋を渡り、阿波十郎兵衛屋敷を訪れる「吉野川横断と阿波人形浄瑠璃」を楽

しむコース。水と文化をめぐる電動サイクルツアー「西国三十三観音ミニめぐりと吉野川の恵みツアー」などさまざま。この吉野川の恵みツアーの昼食で用意されているお弁当は、その名も「極上すじ青のり弁当」。色々な方々の協力のもと、徳島のことを知り尽くした徳島ツーリズム協会だからこそ実現できたお弁当だ。徳島県外の方はもちろん、地元の県民が参加しても魅力的なツアーが数多く用意されている。

「これからは、吉野川での野鳥観察会や力又体験など、川での遊びも含めた川の魅力を再発見するツアーなども開催したい」と黒田さん。今後も楽しみだ。



吉野川橋にまつわる話。吉野川の恵みが育んだ産業についてなど次から次へと話してくれる。



徳島ツーリズム協会HP

サンセットクルーズに関する写真提供
NPO法人徳島ツーリズム協会

4月～6月限定 サンセットクルーズ

吉野川の雄大さを感じられる期間限定のツアーが企画されている。吉野川から望む夕暮れの大パノラマと新町川を彩るLEDアートを鑑賞する約1時間のクルージング。徳島ならではの和菓子と飲み物付き。

- 実施日:4月～6月の毎日（潮位の都合で運行不可日あり）
- 集合場所：新町川水際公園「ひょうたん島周遊船のりば」
- 集合時間：4月/午後5時30分 5～6月/午後6時
- 所要時間：1時間
- 旅行代金：お一人様1,500円
- 最少催行人数：1名様より **申込は当日12時まで**

お申込み・お問合せ先：NPO法人徳島ツーリズム協会
〒770-0833 徳島市一番町3丁目29-2

TEL&FAX：088-622-8214 携帯：090-2784-6416

E-mail：info@toku-ta.jp



住んでいる人が楽しいまちへ NPO法人 新町川を守る会 理事長 中村 英雄さん

平成2年に有志10名が集まり月2回の川の清掃活動から始まった「新町川を守る会」。現在の会員は約300名。河川の清掃活動、周遊船の運行、水辺でのイベント、吉野川源流域での植樹など活動は多岐に渡る。毎月最終金曜日の水際コンサートは大晦日が金曜日になっても実施。イベントを定着させることが大事だという。「住む人が楽しい町だと、来る人も楽しくなる。町全体を楽しい場所にしたいと考えています」と中村さん。四季折々に花がいっぱい町にあったらみんなに喜んでもらえると、徳島の中心市街地を花いっぱいにする「とくしままちなか花ロードProject」を実践。外国人を含む多くのボランティアが参加している。吉野川に関しては、「人と人とのつながりで吉野川流域全体が『吉野川まるごと博物館』になったらいい。それぞれの地域に吉野川を案内する学芸員がいて、案内してもらえると。吉野川流域全体で連携してできたら」とも。

そして、中村さんの夢は、世界から船が徳島を訪れるような「海の駅」ができること。水都徳島を世界の人々が集まる交流の場にしたい。夢は大きく広がっていく。

吉野川から始まるストーリー 輝く宝石を全国へ発信

「文化ってね、何を大切にしたいか、何を美しいと感じるか、どんな町にしたいか、どんな暮らしをしたいか、そんな思いがあふれたものだと思うんです」と言う佐藤さん。「新町川だって、以前はゴミが散乱し水も汚かったです。美しい水辺を取り戻したいと新町川を守る会の中村さんが立ち上がって、清掃活動をしました。その結果、水辺が整備され周遊船も出て、マルシェが開かれたりして、水辺が暮らしに取り入れられるようになりました。中村さんの思いから水辺の文化が生まれました」

吉野川と人形浄瑠璃は、大きな関わりがある。

周遊船を、ディズニーランドのようにワクワクするものになりたいと中村さん。



平成28年度のひょうたん島周遊船の乗船数は約6万人。外国からのゲストも1割を占める。国内外問わず多くの人々が訪れている。

ひょうたん島周遊船



周遊船乗り場

乗船料：大人200円子ども100円（保険料のみ）
運行時間：定期便は11:00から40分間隔。

（最終15:40出航）毎日運行（1月1日は休み）

7月と8月は17:00から40分間隔で出航するナイトクルーズも

実施。（最終19:40出航）

8月12日～15日9:00～22:00

（15分間隔で運行）

受付場所：新町川水際公園ポートハウス前
（両国橋北詰）

問合せ先:NPO法人新町川を守る会

TEL:090-3783-2084



徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 事業課長

公益財団法人 阿波人形浄瑠璃振興会事務局長

佐藤 憲治さん



太棹^{ふとさお}三味線の伴奏と、太夫^{たゆう}が物語を語る浄瑠璃、三人遣いの人形芝居、この三者によって演じられる人形芝居が阿波人形浄瑠璃。阿波十郎兵衛屋敷では、毎日人形浄瑠璃『傾城阿波の鳴門』を上演。写真提供:徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

毎年氾濫する吉野川が運んだ肥沃な土壌から阿波藍が栽培され、その阿波藍によって、藍商人たちは莫大な富を得た。その財力を背景に商人たちは、阿波藩の領地であった淡路島から人形座を頻りに徳島に呼んで県内で興行した。ここから、徳島県に人形浄瑠璃文化が発展したのだ。私たちが暮らす徳島には、風土や歴史を背景に長年育まれてきた文化があり、その文化こそが地域の個性や魅力となる。

「文化で町を変えたい」佐藤さんの思いは、人形浄瑠璃の伝承や発展だけにとどまらない。吉野川から藍、そして浄瑠璃へとつながるストーリーをもとに、2014年には、徳島市の新町川から吉野川を遊覧し、十郎兵衛屋敷で人形浄瑠璃を鑑賞後、藍染め体験を行うツアーを開始した。徳島の食材をふんだんに使ったお弁当もついている。まさに吉野川の自然の魅力に触れ、吉野川が生んだ文化に触れるツアーで、参加者には好評を得ている。



徳島じょうりクルーズは、4月～10月の毎週日曜日。（7月30日、8月13日を除く）お問い合わせ・お申込みは、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷まで。

写真提供:NPO法人徳島ツーリズム協会



左から、佐藤憲治さん、運営スタッフの森住孝義さん、三好理加さん、駒田早智さん。



徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 ●●●●●●
〒771-0114

徳島市川内町宮島本浦184
TEL:088-665-2202 開館日、休館日等はHP参照。
入場料: 一般410円、高・大学生300円、小・中学生200円

『じょうり』とは、もともと美しい宝石を意味する言葉だそうだ。「阿波人形浄瑠璃も吉野川も阿波藍もみんな美しい宝石、それらがタッグを組んで魅力を発信することで、大きな力になるのでは。スジアオノリだって、なると金時だって、吉野川が生んだ宝石でしょう」と佐藤さんは言う。吉野川の歴史から育まれた伝統文化、吉野川から生まれた産物、本当に吉野川はなんと素晴らしい宝物を生み出しているのだろうか。新たな形で人形浄瑠璃の魅力を再発見してほしいと、人形とチェロなど、他分野とのセッションも積極的に行う。そこにしかないもの、地域の魅力を大切にしながら、スタッフとともに佐藤さんの奮闘は続く。

徳島ツーリズム協会 黒田さん、新町川を守る会 中村さん、そして佐藤さんにつながった今月号。人と人とのつながりもまた、新しい文化を生む。